

Think globally, Act locally

若人は5年後、10年後に自分は何をしているのか、明確に自分の将来を思い描き、そのために今何をすべきか、しっかり考えて行動してほしいと思います。目標は高く大きく設定すべきで、逆に計画はより綿密に本気で立てるべきです。若いうちほどチャレンジ精神を鼓舞し、しかも地に足を着けて進んでもらうために、「Think globally, Act locally」をモットーにしてほしいと強く願っています。このフレーズは、国際的な視野を持ちながら、自分の足下の問題にも対処しようという意味です。私は、1度目に5歳と3歳の子どもを連れて、2度目には小中高生の子ども3人を連れて、2回米国留学を果たしました。この留学経験を通して、世界中に素晴らしい友人をつくれたことと、多様な文化に触れたことで、半ば強制的に国際的な視点に立つことになりました。今は世界が近くなり、国際的な視野を得られる機会はそこかしこにあるのではないのでしょうか。長崎大学はその機会の一つとなり得る場です。私が長崎大学学長に就任してからちょうど1年で構築した国際的な連携だけでもいくつもあります。例えば、昨年10月に訪れた全北大学校



(CBNU)は、前学長の素晴らしい方針で大きく躍進したことを知りました。11月には台湾の国立中興大学(NCHU)を訪れ、地方総合大学としての特徴を示すことの魅力を感じました。12月には英国のロンドン大学衛生熱帯医学大学院(LSHTM)を訪問し、新しい学位プログラムに関する覚書に

調印しました。また、今年6月にはケニアのケニア中央医学研究所(KEMRI)で、長年にわたる熱帯医学協力をさらに発展させました。7月にはIT大国インドの人材供給機関であるインド工科大学(IIT)デリー校、インド西洋医学の総本山である全インド医科大学(AIIMS)、インドIT発祥の地で優秀な人材を輩出し続けているインド理科大学(IISc)ベン

ガルール校と基本合意書に署名し、さらに、インドIT技術や、モノづくり教育・研究機関の最高峰であるインド情報・設計・生産技術大学(IIITDM)カンチープラム校との大学間学術交流協定に署名し、2年後の設置を目指している情報データ科学部(仮称)のための教員と学生の連携の基礎づくりをしています。長崎大学の将来のために、私も「Think globally, Act locally」を実践しています。

河野 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.65

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	Think globally, Act locally	1
特集	地域の最前線に立つ長崎大学の卒業生たち	2
	長大生の自主活動3本立て	15
研究最前線	二酸化炭素を資源とするグリーンケミストリー研究 白川誠司	17
Topics	ナノサイエンス研究の国際プロジェクトが加速	19
Information	長崎大学公開講座 クイズ&編集後記	21

表紙のはなし

今年の長崎くんちで奉納する椀島町の人気出し物、太鼓山(コッコデシヨ)。オーデションで選ばれた担ぎ手に現役の長崎大学生が2人も入ったというニュースを聞き、さっそく表紙にご登場いただきました。向かって左から藤亘太郎さん(歯学部1年)と、北野壮真さん(教育学部1年)。10月7,8,9日の本番の演技、期待していますよ。ヨイヤー!